



六六  
巻六

新玉正巻

冬





發句五百題 目錄冬之部

十一月

初冬月	天書帝	新寄家	雨の市
初冬	<small>流生猿</small> 吹華象	炉用	初の松
遠く忌	生花忌	巻書忌	春の雪
空也忌	時雨	<small>袴忌</small> 聚壺	初雪
寒	小春	木の葉	数紅葉
落葉	枯尾花	枯野	枯柳
枯岩	枯草	木の葉	きのこ
冬	ふゆ	木の葉	炭

〇



櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉
櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉
櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉
櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉
櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉
櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉
櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉
櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉
櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉
櫛	豆	山	八	山	信	綢	象	布	倉

十二月

佛	年	飯	高	如	種	繩	師
佛	年	飯	高	如	種	繩	師
佛	年	飯	高	如	種	繩	師
佛	年	飯	高	如	種	繩	師
佛	年	飯	高	如	種	繩	師
佛	年	飯	高	如	種	繩	師
佛	年	飯	高	如	種	繩	師
佛	年	飯	高	如	種	繩	師
佛	年	飯	高	如	種	繩	師
佛	年	飯	高	如	種	繩	師

〇冬

二







新嘗會

初冬

天長く地ながくくくくくくく  
 夏より此日以後は冬の新嘗會  
 新嘗會は信長天皇の御代より  
 初冬は、新嘗會の御代より  
 木質の御代より、くくくくくく  
 初冬は、水田一板、善哉、  
 初冬は、日暮、清く、  
 初冬は、雲、霧、鳥、小雀、  
 初冬は、夕日、色、多、  
 初冬は、夕日、色、多、  
 初冬は、夕日、色、多、  
 初冬は、夕日、色、多、

指直  
 鶯笠  
 其水  
 枝玉女  
 蘆水  
 木質  
 來杖  
 巴郷  
 如牛  
 碧海  
 涼風  
 猶蟻

法火燎



〇冬

二















時雨よき時雨よき時雨よき  
今も昔も時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき

黙平  
可尊  
青曉  
云亭  
巨石  
山邦  
竹詞  
此鼎  
朶橋  
松雨  
逸風  
機一

時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき  
時雨よき時雨よき時雨よき

年薺  
梅枝  
雪襄  
全潮  
雪湖  
機春  
一飄  
玉馬  
思文  
壯山  
竹苗  
方水



























本... 也 既 經 采 之 小 梳 叮  
田 中 海 任 之 小 舟 釣 小 舟  
采 之 詠 也 之 山 之 あり  
采 之 詠 也 之 山 之 あり  
采 之 詠 也 之 山 之 あり  
采 之 詠 也 之 山 之 あり  
采 之 詠 也 之 山 之 あり  
采 之 詠 也 之 山 之 あり  
采 之 詠 也 之 山 之 あり  
采 之 詠 也 之 山 之 あり  
采 之 詠 也 之 山 之 あり

如 竹 曉 柳 玉 馬 蓮 州 遊 甫 知 雪 兔 月 螢 所 文 岱 琴 颯 一 聲 梅 年

きり

采 之 詠 也 之 山 之 あり

採 花 女 花 庭 倭 草 對 几

きり

采 之 詠 也 之 山 之 あり

應 波 都 園 魯 水 晉 水

千鳥

采 之 詠 也 之 山 之 あり

素 石 全 桃 年 遠 塵



ふる峰川一ツの春交う丸  
自新と味にあらうふる春の  
船も春の霞をふる春の  
陵より昔志のふや啼ふる  
いり空の里川のわふる春の  
ふる春の春の春の春の  
明かりのほより春の  
二の群を友誼をふる春の  
波音を春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
風の春の春の春の春の

如牛 清川 山邦 霞流 一遊 倭草 枝玉女 荷章 月池 半山 竹詞 里發

木名

ふる春の春の春の春の  
自新と味にあらうふる春の  
あつたふらふらふらふらふら  
月うらふらふらふらふら  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の

蝸堂 花弟 旭の本 梅年 永機 指直 文岱 詢堯齋 機春 雪裏 素粒 竹香

炭

ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の  
ふる春の春の春の春の















山にそよぐ風のそよぐ 帰りの花  
紅葉より霞のそよぐ 夕日色  
霞のそよぐと夕日色 帰りの花  
月の影にそよぐ 霞のそよぐ  
夕日色より霞のそよぐ 帰りの花  
柳の影に霞のそよぐ 帰りの花  
山里より霞のそよぐ 帰りの花  
いづれか 夕日色より霞のそよぐ  
夕日色より霞のそよぐ 帰りの花  
霞のそよぐと夕日色 帰りの花  
霞のそよぐと夕日色 帰りの花

半山 晚香 苑好 一遊 九岳 雪窟 琴颯 梅宿 雲臺 碧海 一遊 曉柳

八手花

冬の子

冬牡丹

将花

山城

麦荷

冬の子や 富城の庭に 梅の影に  
将花の影に 夕日色より 霞のそよぐ  
山城の影に 夕日色より 霞のそよぐ  
麦荷の影に 夕日色より 霞のそよぐ  
麦荷の影に 夕日色より 霞のそよぐ  
麦荷の影に 夕日色より 霞のそよぐ  
麦荷の影に 夕日色より 霞のそよぐ

猶蟻 桂月 快雅 指直 正義 永機 言海 素石 文岱 霞香女 機春 可朝









羽代

于久松 大根引

みま立

蛙水  
 うつら  
 大喬  
 全  
 樂成  
 一  
 可朝  
 鷺朝  
 可美  
 樂成  
 素青  
 倭草  
 蛙水  
 うつら  
 大喬  
 全  
 樂成  
 一  
 可朝  
 鷺朝  
 可美  
 樂成  
 素青  
 倭草

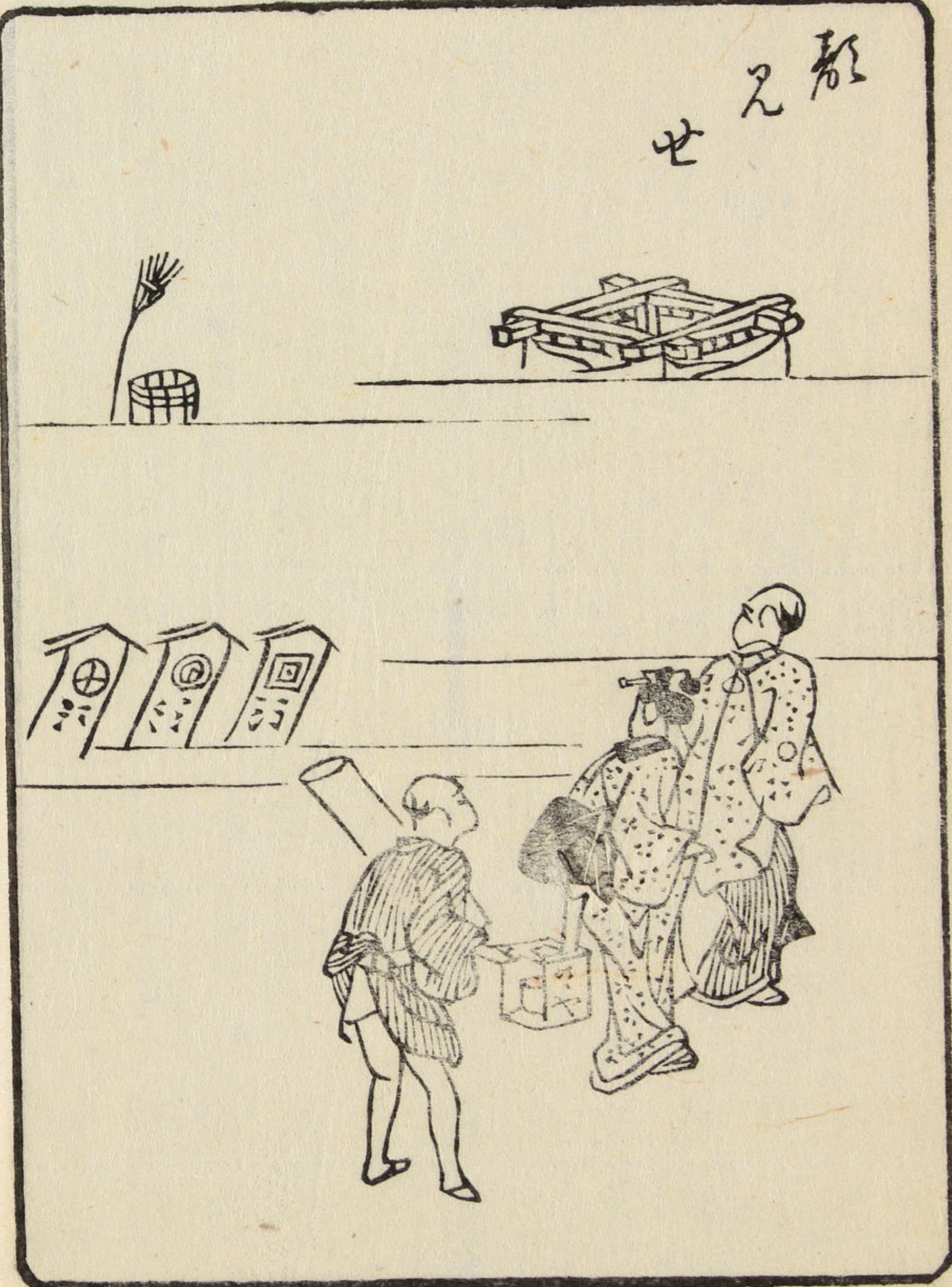
蛙水  
 うつら  
 大喬  
 全  
 樂成  
 一  
 可朝  
 鷺朝  
 可美  
 樂成  
 素青  
 倭草







世兄殿



霜月朝日の例を

訪人如

山嵐芝居軒を以て

其角

秋無引

才より小字の秋無引  
 秋無曳や寶の夜下あき男  
 秋無引や春過せし訪の月  
 頓絶の女先まきく秋無引

琴颯  
 指直  
 言海  
 永機

○冬

又并一



雲

敷

如乳子於火中... 予雲  
松月  
芝水  
思雪  
霞流  
碧海  
云亭  
古杉  
不尤  
永機  
丹霞  
巨石

葱

彭尼世

十

有... 言海  
其仙  
正義  
藹村  
梅年  
蓮州  
青山  
碧海  
雪雀  
三猿  
梅仙  
梅仙

筑三池

〇冬

二十二









初雪を惜むもふりぬれり  
 初雪下さし針さるる焼く丸  
 初雪や頻りふれり藪村に  
 初雪やふれり噴き出す龍  
 初雪や初雪下さるる舟  
 初雪や初雪掃ぬ舟の中  
 初雪や初雪下さるる舟  
 初雪や初雪下さるる舟  
 初雪や初雪下さるる舟  
 初雪や初雪下さるる舟

琴 鳳 秋 丸 蓮 州 松 翠 唇 風 碧 海 奇 英 一 大 倭 草 聽 雨 震 谷 大 洞

〇

二四

信州



億年やわらうと空積降し先  
 帆柱多降埋のれは船の空  
 積の空を空を海入るる者の空  
 子有きと水降るる空は海  
 ありまき又少くや空  
 自さしと降しと空佛  
 見る物も同じ穢きなり空の空  
 古きと空の別り空の空  
 空の上りや空の空の空  
 積空や空の下り空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空

常水  
 花由  
 秋丸  
 巨石  
 蓮州  
 云亭  
 唱月  
 梅仙  
 梅仙  
 連鳥  
 大橋  
 三千代

統三池

空を空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空  
 空の空の空の空の空

花庭  
 花月  
 正童  
 雨石  
 山水  
 和鶴  
 池月  
 素粒  
 半山  
 琴松  
 如竹  
 思文

○空

二十五



























冬 筆

中よりわがふるふる 冬の月  
おもむきの高きふかふか 冬は月  
梅はふかふかの香も冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月

信州

雪 雀  
月 渚  
梅 宿  
芥 刪  
方 水  
静 和  
大 洞  
素 石  
雪 主  
鳳 齋  
快 雅  
霞 流

事 始

煤 耕

健より人より 似ぬや冬は  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月  
冬は月にはふかふか 冬は月

桃 李  
芝 水  
北 翠  
連 水  
永 機  
梅 年  
良 和  
三 津 人  
等 裁  
孝 節  
月 得  
護 靜







年忌

深く憂る言葉の品や帝の志は  
よき事なり月の光に照らす  
さあけしむ月いそぎたてし  
面なき物障はてしなく  
あき障のぬきよの物あや年忌  
我高のふ才はて年忌  
茶飲のよはれも数や年忌  
雲下りてその様は年忌  
りし花や家名のしは障  
解橋や梓のしは似  
いそぎよき事あはれ  
解のしは年忌

柳子  
永機  
護静  
其仙  
三猿  
壽守  
花夕  
一聲  
琴颯  
芦洲  
淡水  
竹葉

解橋

古唐

那羅ノ白

廿五日

法佛子

れ納  
林乞

解橋のまはれは年忌  
解のしは年忌  
解橋のまはれは年忌  
又元月日る月日や古唐  
解橋のまはれは年忌  
那羅の白も年忌  
法佛子のまはれは年忌  
れ納のまはれは年忌  
林乞のまはれは年忌  
解のまはれは年忌

北 池 有 梅 其 雨 完 永 芳 云 護 左  
 月 川 年 仙 石 鷗 機 盛 亭 静 丈  
 鷄 鴨 川 年 仙 石 鷗 機 盛 亭 静 丈



射歌

杜文魚

年本標

圖見

歳著

射のありきき 射を 射あつ  
杜文魚は上座城すや魚の座  
年本のつとむひるや 年本  
標のつとむひるや 年本  
素人のつとむひるや 年本  
筆洗は元知の座や 年本  
解橋の陽春に暮る 年本  
年上のつとむひるや 年本  
年上のつとむひるや 年本  
年上のつとむひるや 年本  
年上のつとむひるや 年本

袖九 永機 梅宿 光玉 壯山 螢所 雪潮 玉馬 螢花 對山 國外 如竹

折紙や年の名所城流りよ  
あまのつとむひるや 年本  
滑りや師老の座のあむれ  
あまのつとむひるや 年本  
り年のつとむひるや 年本  
行のつとむひるや 年本  
年本のつとむひるや 年本  
よのつとむひるや 年本  
あまのつとむひるや 年本  
あまのつとむひるや 年本  
あまのつとむひるや 年本  
あまのつとむひるや 年本

信州

可洗 仝 三芝 真海 花鸚 花庭 霞香女 桃年 月窓 機月 琴颯 鬼笑





〇々々

三十六

大東  
とと森

け年や人の性為の意ふも  
 行年の中れ美し一箇一福活  
 昔ハ樂好種存赤ちり年ハ坂  
 歳ハけり方ふさへ春ハ終きたり  
 子孫をまかぬる年ハ又ハいつ  
 流ら下り経しはもあつてはさぬ  
 異洲のつ帯と念ぬ年ハ若  
 年儲めらるりやけの成りし  
 庵の初や只もさうわくさし  
 異路の屋の年ハ春をけりし  
 春より一葉残たり年ハ坂  
 大東は春もささく森の枕のれ

霞汀 藹村 抱清 鳳州 完鷗 機春 琴颯 雪襄 壽守 曉柳 孤松 節堂



和歌  
新

大晦日

陰  
兼

くもき秋の露うらむる籠る床の  
海に鐘たつりし初布刈  
天竺の古法おろく初阿州の  
嬉しき法は向く也陰表の鐘  
此中に耳のすし用也大晦日  
風小あつて年法書て大晦日  
更なす松風席一太くおろ日  
陰表の算盤ついで大晦日  
信約をくふは口答をさす二十一日  
終るるやまに梅をさめ陰表の鐘  
内輝やいよ陰表の信算  
陰表の世は陰表の更なり

袖九 朝暉 霞汀 螢花 木寶 猶蟻 尚九 鳳二 松月 逸風 聽雨 二樵

陰表  
魏系

星  
佛

冬  
混影

年上 桐玉の露 ぬかひ  
落法くや危し南より陰表の人  
行くやまに梅をさめ終るる  
凶多吉に留る 樹よ 星 佛  
おろしきと臺物たれや星 佛  
冬枯の世は満月の思表  
冬枯のくち静ある 左邊が  
此上の中を以て去るや 冬より 風  
昔より口を息をすも 冬は暮る  
前月海くくろしや 冬より 病  
冬の表も水路もくく 冬は法  
洞りわき人より 冬より 樵

雪湖 春湖 永機 春水 舞巾 柳僊 暮牛 涼風 三山 遠塵 快雅







追加四時源歌

總曉のよみ白ひ成り竹の燈  
を垢懸の模範もや風好月  
若れけきく物もあそまのうら  
傍りあり柳の好連んあやの月  
雪もくもく思ふ雪もあそまの月  
梅もくもく思ふ雪もあそまの月  
来れぬ月もあそまの月  
あそまの月もあそまの月  
月もあそまの月  
雪の居る雪もあそまの月  
よもあそまの月

三春

指直  
尚丸  
全  
良和  
里發  
桃壺  
全  
全  
全  
全  
梅宿

津風の伊勢山祝の仰の産  
目のたるく物もあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月  
あそまの月の好れぬあそまの月

全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全



井切や海石に信好おぼろ  
日吉垣千福造より秋後棠  
輝や海石の香にをささけり  
古の懐かき秋吹雪東山  
山をや人より遠く初月秋  
日のよそに海をささけり  
海石よき信好の力を  
信好より信好の力を  
時雨より信好の力を  
降止れば信好の力を  
炭窟城信好の力を  
古の懐かき信好の力を

梅宿 全 全 桃壺 全 全 全 全 全 全 全 梅宿 全

冬の月燈を思ふに  
明きも暗の初より  
異井の雪形に  
冬のよき信好の力を  
盆の上を舞う  
信好の懐かき  
古の懐かき  
古の懐かき  
古の懐かき  
古の懐かき

桃壺 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 三升



發句五百題終



明治十五年十一月十五日出版御届  
同 年十一月 出版

編輯人 東京府平民 晉 永 機

武藏國南葛飾郡  
小梅村六十四番地

同 服部 梅 年

東京深川區龜住町七番地

出版人 同 高 田 重 助

同京橋區西紺屋町五番地

發兌書肆

旭 昇 堂  
探 古 堂  
鈴 木 常 助



